

もっと、あなたに響くこと。



News Release

2015 年 1 月 5 日
株式会社ジュピターテレコム

2015 年 年頭所感

(本資料は、ジュピターテレコム会長:森 修一、社長:牧 俊夫の社員向け年頭挨拶の抜粋です)

新年あけましておめでとうございます。2015 年の年頭所感を申し上げます。

消費税 8%への移行が実施された 2014 年、業界では 4K 試験放送開始のほか、NTT 東西による光卸サービスの開始決定など様々なニュースが飛び込んできました。当社にとっては JCN グループとの統合による「新生 J:COM」の誕生が最大の出来事であり、商品やブランド、システムなど統合作業は計画通り順調に進んでいます。

2015 年は「厳しくもあり、期待もできる年」「大きな変化が起きる年」

日本ケーブルテレビ連盟の言葉を借りると、これからは“異次元の競争”の時代に突入します。放送と通信の領域で多数のプレイヤーが入り乱れ、異業種との戦いが激しくなるでしょう。中でも、光卸サービスの開始による影響には相当な危機感を抱いています。大手携帯電話会社による囲い込みが始まり、固定ブロードバンドマーケットの流動性がなくなる事態が懸念される中、様々な取り組みを確実に実施していくことが求められます。

J:COM の課題は「解約防止とテレビサービスの獲得」であり、既に手は打っています。昨年よりスマートテレビサービス「Smart J:COM BOX」「Smart TV BOX」を全局で提供開始し、タブレット無料配布キャンペーンも大変な好評を得ました。映像を観ていただく機会の拡大に努め、加入者の底上げを図っています。

2015 年は JCN との統合効果がさらに発揮される楽しみな年でもあります。旧 JCN 局では、ビデオオンデマンド (VOD) など新商品の投入や、量販店やマンション管理会社など新しい販売チャネルを導入することで、普及率を高めていけると期待しています。加入獲得、解約防止、ARPU 向上に向けて、具体的には以下のポイントに力を入れていきます。

1. 4K 放送の本格運用 ～4K はケーブル業界にとって“追い風”～

昨年の試験放送開始に続き、2015 年春には衛星での 4K 商用放送が開始予定で、4K 放送の分野は活気づいています。J:COM でも、ケーブルテレビ局向け IP-VOD サービス「milplus (みるプラス)」の 4K-VOD トライアルを昨年 11 月に開始しました。また J:COM オンデマンドでの 4K-VOD 開始準備も進めており、業界の先陣を切って取り組む所存です。また 4K 放送を見るために必要となる第三世代の STB (セットトップボックス) の開発にも着手しています。

2. ネットワークの高度化・高速化

ネットワークの高度化・高速化も早急に取り組むべき課題です。今年は関西を皮切りに全国で順次、インターネット下り速度を現在の 160Mbps から 320Mbps に引き上げます。1Gbps のテストもすでに行っています。昨年合併したテクノロジーネットワークスの力も結集して、技術部門は DOCSIS3.1 などの新しい送信技術の取り込みに注力していきます。

3. MVNO への参入

J:COM は 2015 年、いよいよ MVNO(仮想移動体通信事業者)を始めます。昨今 MVNO は流通や郵便など多種多様な業種の参入で話題となっています。当社サービスの詳細は鋭意検討中ですが、ケーブルをご利用のお客さまに魅力あるサービスをご提供する予定です。インターネットの増速や MVNO により通信事業におけるプレゼンスをきちんと示したいと思います。

4. 2016 年の電力小売り全面自由化に向けての準備

電力一括受電と放送・通信サービスを組み合わせて提供したのはおそらく J:COM が初めてで、お客さまに好評を得ています。しかし来年の自由化により、あらゆる業界から新規プレイヤーが参入することが可能となり、異業種間の競争が始まることを視野に入れねばなりません。ケーブルならではの強みをいかし、これまで以上にしっかりと訴求・獲得していくことが求められます。

5. グループ連携でコンテンツ力を強化

昨年私たちは、「見たいコンテンツがあれば有料であってもお客さまはついてくる」という、テニスの“錦織効果”を目の当たりにしました。良質なコンテンツが人を引き付ける力をもつことを十分理解し、お客さまのニーズをつかみ、視聴者が望むコンテンツを提供することが大変重要です。J:COM は番組事業や映画事業を通じて素晴らしいコンテンツを制作していますが、今年はさらに、放送事業であるコミュニティチャンネルの強化やイベント事業との連携など、グループ全体の機能をフル活用し、優位性を高めていきたいと考えます。

2015 年は「天王山」

2015 年は、業界全体を巻き込む大きな変化の年であり、混沌の時代です。当社にとっては、将来に向かって更に成長できるか、衰退するかの分かれ道、「天王山」です。打つべき施策は沢山ありますが、計画どおり着実にやりきることが大切です。ケーブルの総合力を生かし、コミュニティチャンネルなど地域とのつながりを強化し、新しいサービスや新しい技術を積極的に取り込み、業界全体でシェアする精神を継続します。

社員の皆さんは、「ケーブル業界の発展なくして J:COM の発展なし」ということを忘れずに、会社からの指示を待つだけでなく、ボトムアップで新しい価値を創造していきましょう。

2015 年 1 月
株式会社ジュピターテレコム
代表取締役会長 森 修一
代表取締役社長 牧 俊夫

ジュピターテレコムについて <http://www.jcom.co.jp/>

株式会社ジュピターテレコム(本社:東京都千代田区)は、1995 年に設立された国内最大手のケーブルテレビ事業・番組供給事業統括運営会社です。ケーブルテレビ事業は、札幌、仙台、関東、関西、九州エリアの31社74局を通じて約503万世帯のお客さまにケーブルテレビ、高速インターネット接続、電話等のサービスを提供しています。ホームパス世帯(敷設工事が済み、いつでも加入いただける世帯)は約1,934万世帯です。番組供給事業においては、17 の専門チャンネルに出資及び運営を行い、ケーブルテレビ、衛星放送、IP マルチキャスト放送等への番組供給を中心としたコンテンツ事業を統括しています。※上記世帯数は2014年9月末現在の数字です。